

《横浜市感染症臨時情報》

伝染性紅斑(りんご病)が流行しています

- ◇ 流行の中心は4～5歳で、2011年以来の流行です。
- ◇ 妊婦が感染することにより、胎児の異常や流産を引き起こす可能性があるため、妊婦は流行時期に感冒様症状の人に近づくことを避けましょう。

【伝染性紅斑(りんご病)とは】

患者からの飛沫、接触により感染し、10～20日の潜伏期間の後、頬に紅い発疹(写真参照)が現れ、続いて手足に発疹がみられます。なお、頬に発疹が出現する7～10日くらい前に、感冒様症状などが見られることがあり、この時期に感染力が高くなっていますが、発疹が現れたときには感染力はほぼ消失しています。妊婦が感染すると、胎児の異常や流産を引き起こす可能性があります。**妊婦は流行時期に感冒様症状の人に近づくことを避け、万一感染した場合には、医療機関に相談し、胎児の状態を注意深く観察することが重要です。**

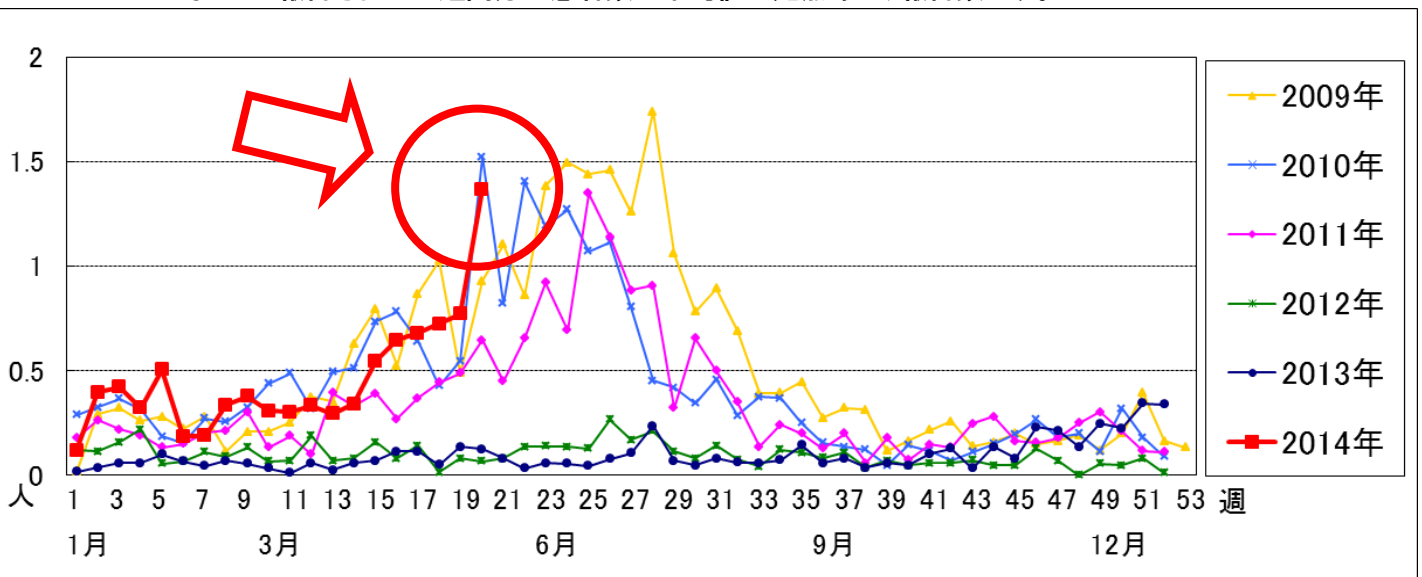


(国立感染症研究所 H.P.より)

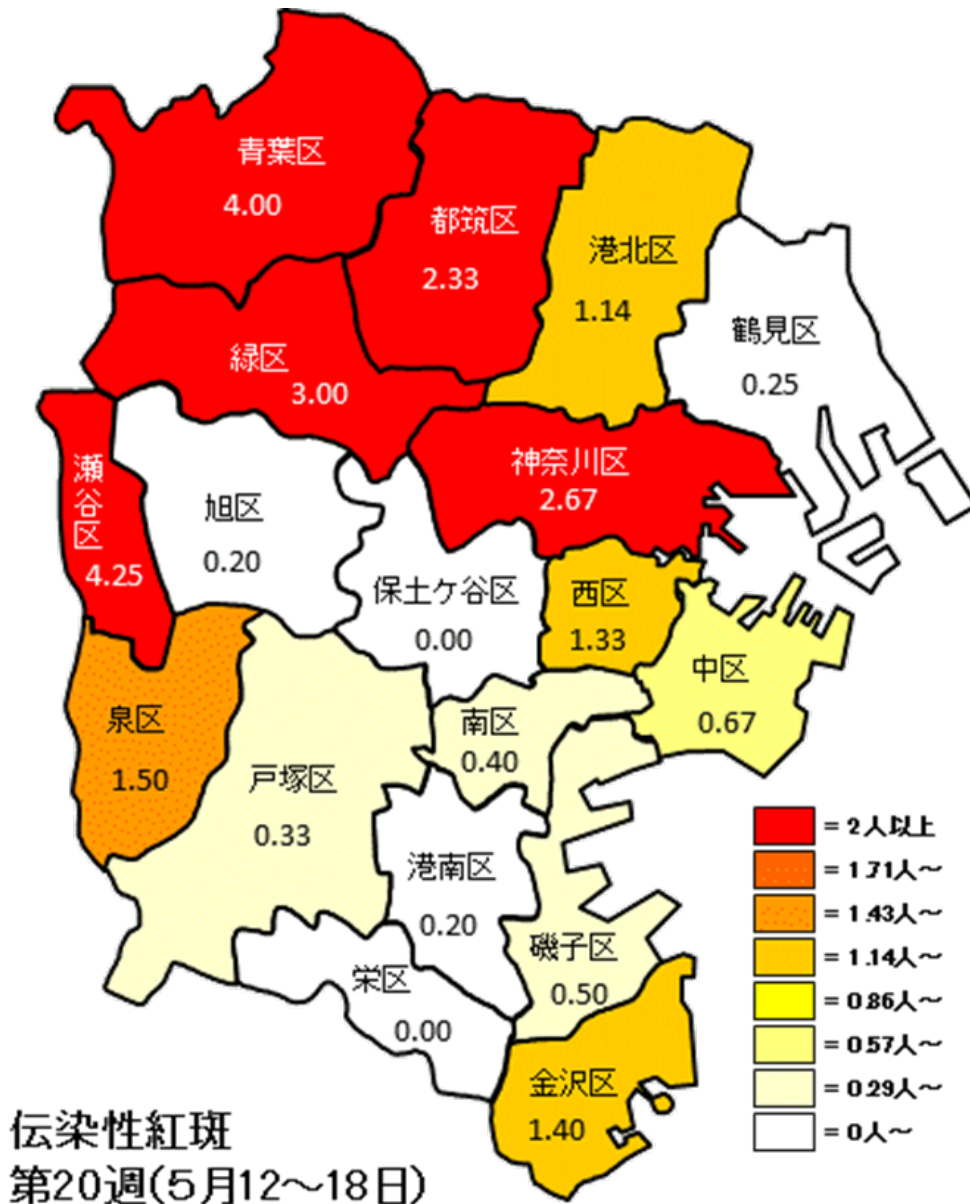
◆参考: [伝染性紅斑について\(国立感染症研究所\)](#)

- 市内流行状況: 第20週(5月12日～18日)は、**定点※あたり1.37**と、同時期としては過去6年間で2番目に多い報告となっています。

※定点…定期的に患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内約90か所)を定点医療機関といい、そこから報告された1週間分の患者数の平均値が定点あたり報告数です。



区別流行状況（定点あたりの患者報告数）



学校保健安全法での取り扱い

発疹が出る頃には患者からの感染力はほぼ消失しているため、出席停止については明確に定められていませんが、条件によっては、第3種の感染症の「その他の感染症」として、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまでの期間の出席停止の措置が必要と考えられます。

【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463
TEL 045(754)9815